

避難施設に人工の高台を

複合施設としては設置可能



かめ ざわ のり あき 議員
亀沢 徳昭

県の関係者に検査をお願いしたが、結果についてはまだ答申を頂いていない。公園道路のかさ上げは、単純に技術的問題であり防潮施設としての機能が期待されるので、積極的に投げ掛けをしていきたい。

策の観点から、職員の地域担当制の中で自主防災組織、消防団等と連携し、危険箇所、避難場所の確認と対策の検討、

各地域の課題を洗い出して、地震、風災害時のルールと言われる防災計画を作成していく。

問 知事が打ち出した避難シエルター構想は、「昇る所がなければ潜れば良い」の発想の転換である。この避難シエルターは、色々技術的な面など検討する中で、入口を閉める人の精神的な問題があるが、工科大の検討委員会で構造的に十分可能であると指摘を受けている。その発想の転換で人工高台の造成は考えられないか。また、松原の松を守るために公園道路のかさ上げは。

答 大西 町長

地下シエルターについては、

県が工科大と連携して行っている検討委員会で、水深30m以上、震度7に耐えられる構造上の安全性や、密閉性、酸素や、電源の確保、精神面等々が検討されている。様々な課題を抱えている避難シエルターの最大の特徴は、津波に対して想定フリー、いかなる津波高さにも対応可能であるのに対して、盛り土構造の人工高台は、二度逃げが出来ない孤立する可能性が考えられ、若干シエルターに劣る点がある。しかし、高台の上に、避難タワーやシエルター等の施設を設置する事による複合施設が可能であり、そういったところでは高台に優位性があるろうかと思う。また、全方向からの避難が可能であることも大変大きな優位性であること認識している。

松原については、防潮施設としての機能の調査を大学、

問 現在、震災対策と言えは津波対策に重点が置かれているが、地震は津波だけではなく大きな揺れも問題だ。それも震度7の揺れは、中山間地域にも多大な被害を及ぼすと思われるが、その対策を問う。

答 松本 情報防災課長

今回、国の想定は現在の科学的知見の中であらゆる可能性を考慮した数値であり、決して次に起こる地震、津波を予測したものではない。しかし、最大クラスの地震、津波を考慮した対策は早急に実施しなければならず、最も多くの命にかかわる津波対策について鋭利推進している。

揺れについては、想定前のデータではあるが、全体として建物の崩壊、がけ崩れの犠牲者が19%程で、中山間地域においては、地震、風災害対



入野松原の公園道路